

5月18日付の琉球新報に掲載いただいた「ドクターのゆんたく・ひんたく」で参考になっている主なHPと論文の紹介です。リンク許可をいただいたものについて記載しています。

#### 参考HP

沖縄アレルギーゆいまーの会

URL：<https://okinawaalleyuimaru.wixsite.com/homepage>

沖縄県のアレルギー疾患をお持ちの方のお悩みごとの解決や、生活の質(QOL)向上のため、アレルギー指導医をはじめ管理栄養士、食物アレルギー対応食アドバイザーの方々と運営されている患者・家族会です。

ちばなクリニック小児科 小児アレルギーコラム

URL：<https://chibana.nakagami.or.jp/shinryouka/syouni/>

ちばなクリニックの小児アレルギー専門医の佐藤先生が書かれているアレルギーコラムです。離乳食の進め方や、アレルギーに対するQ&Aなどが分かりやすく書かれています。

#### 論文

タイトル

著者名. 掲載雑誌. 掲載年.月日;刊:掲載ページ

(著者は代表のみ書いています。et al とは他に共同の著者がいますということです)

Factors associated with the development of peanut allergy in childhood.

Gideon Lack et al. New England Journal of Medicine. 2003 Mar 13;348:977-85

食物アレルギーの経皮感作について書かれている論文です。ピーナッツオイルを含むスキンケア用品の使用と、湿疹によって、ピーナッツアレルギーを起こす可能性が高くなると報告されています。

Epidemiologic risks for food allergy.

Gideon Lack. Journal of Allergy and Clinical Immunology. 2008 June;121: 1331-36

食物アレルギーにの発症に及ぼす皮膚からの接触の影響と、口から食べることによる影響について書かれている論文です。

Randomized trial of peanut consumption in infants at risk for peanut allergy

George Du Toit et al. New England Journal of Medicine. 2015 Feb 26;372:803-13.

LEAP スタディと呼ばれる研究です。アトピー性皮膚炎または卵アレルギーを持っている子どもさんについて、生後4~11か月からピーナッツ摂取を行った方とそうでない方を比較、早期摂取でピーナッツアレルギーの予防効果がみられたと報告されました。

Randomized Trial of Introduction of Allergenic Foods in Breast-Fed Infants.

Michael R Perkin et al. New England Journal of Medicine. 2016 May 5;374:1733-43.

EAT スタディと呼ばれる研究で、生後3か月からピーナッツ、鶏卵、牛乳、ゴマ、白身魚、小麦を早期摂取し、生後6か月以降の摂取と比較した研究です。早期に一定期間・量が摂取できた場合に早期摂取したほうのピーナッツ、鶏卵でアレルギー予防効果がみられたと報告されました。一方で複数の食べ物に対して早期に導入することの難しさも述べられています。

Two-step egg introduction for prevention of egg allergy in high-risk infants with eczema (PETIT): a randomised, double-blind, placebo-controlled trial

Osamu Natsume et al. The Lancet. 2017 January 21;389:276-286

PETIT スタディと呼ばれる研究です。アトピー性皮膚炎と診断された早期乳児にたいして、アトピー性皮膚炎の治療をしっかりと行ったうえで、生後6か月から少量0.2gの加熱卵白を開始、9か月から1.1gに増量すること1歳時点での卵アレルギーの発症を減らすことができると報告されました。寄稿内の小児アレルギー学会からの提言はこの論文に基づいたものです。提言の中にもありますが、6か月時点ですでに卵アレルギーになっているお子様もおりますので開始については小児科、必要に応じてアレルギー科の管理の下で行うことが推奨されます。

Primary Prevention of Cow's Milk Sensitization and Food Allergy by Avoiding Supplementation With Cow's Milk Formula at Birth: A Randomized Clinical Trial.

Urashima Mitsuyoshi et al. JAMA Pediatrics. 2019 Dec 1; 173:1137-1145

ABC スタディと呼ばれる研究です。生後3日間ミルクを摂取しなかった児と、生後1日5か月までから連日5ml以上のミルクを摂取した児で比較したものです。生後3日間ミルクを摂取しなかった児のほうが、生後2歳までのアレルギーの発症率が低かったと報告されました。単純に早ければ早いほど予防効果が高まるというわけではなく、開始時期も検討する必要があるということが推測されます。

Randomized trial of early infant formula introduction to prevent cow's milk allergy

Sakihara Tetsuhiro et al. Journal of Allergy and Clinical Immunology 2021; 147: 224-32

SPADE スタディと呼ばれる研究です。沖縄県でハートライフ病院小児科の崎原先生が中心となっておこなわれた研究で、生後1か月から3か月まで最低10mlのミルクを摂取した児と、摂取しなかった児とで比較したものです。ミルク摂取を行った児でミルクアレルギー発症率が低下することが報告されました。本研究でも参加者は湿疹の治療をきちんと行うことが前提となっています。また、少量のミルクが基本であることから、実際に母乳栄養を主体とした栄養の中でも競合しない点が強調されています。